学校番号	3016

令和３年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	啓林館「地学基礎」　（啓林館）						
副教材等	セミナー地学基礎、Libry（啓林館）、スクエア最新図説地学（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地学は「地質（固体地球・地史）」「気象」「天文」「環境」の４つに分かれます。３年生では、「天文」「環境」を学びます。また、後期からはこれまでの総復習を行います。

総復習では、自分の理解だけではなく、他者に理解させることも心掛けてください。授業の課題では相手に伝えるためにはどのように表現したらいいのかを考えていきます。そうすることで、自分の理解を一層深めることにつながります。

２　学習の到達目標

２年生での既習事項と以下の点について、理解するとともに適切な文章や数式で説明することができる。また、必要な表や数式の読み書きができる。
（太陽系の天体・太陽系の誕生／太陽の誕生と進化／その他の恒星／銀河系と周りの銀河／宇宙の姿／地球環境と災害／人間生活と環境の変化）

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	授業で取り扱う内容に、興味や関心を持ち、自ら積極的に取り組もうとする。 適切な授業態度で授業に臨み、指示内容を間違いなく理解している。	図（グラフを含む）・表・数式から読み取れることを理解できている。 文章・図や表・数式を使って自分の考えを他者に理解できるように表現できる。	種々の実習に対して、その目的を理解している。 適切に実習に取り組むことができる。 グループ活動を円滑に進めることができる。	基礎・基本的な教科書の内容を理解している。 既習事項の用語や概念を理解し、それらを使って文章を述べることができる。
評価方法	ノート 提出物 授業態度 積極的提出物	提出物 定期考査	提出物 定期考査 授業態度	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元（題材）の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td>前期中間</td><td rowspan="2">第４部　宇宙の構成</td><td>第１章　太陽系の天体
第２章　恒星としての太陽の進化</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td rowspan="6">a:内容に興味を持てたか

b:図や表・数式が理解できたか。また、他者に説明することができたか。

c:実習内容が確実に行えたか。

d:既習事項が身についたか。</td><td rowspan="6">定期考査

授業態度

ノート

提出物</td></tr>
<tr><td>前期期末</td><td>第３章　銀河系と宇宙</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期期末</td><td rowspan="3">第５部　自然との共生</td><td>第１章　地球環境と人類
第２章　火山・地震災害と社会</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期中間</td><td>第３章　気象災害と社会
第４章　人間生活と地球環境の変化</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学年末</td><td>総復習</td><td>全分野</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能
d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。